

世界の外貨準備の通貨構成

四半期ごとの世界の外貨準備の通貨構成が IMF から発表された。今回は 24 年末時点のデータだ。そこから読み取れるポイントを挙げる。

まず世界の基軸通貨であるドルだ。世界の外貨準備に占めるドルの割合は、前期(24 年第三四半期)に初めて 57% 台へ低下した。このトレンドは今回も継続している。今年になって金へのシフトやトランプ関税などもあり、今後ドルの割合の長期低減傾向は止まるよりも加速される可能性が高い。

ドルからのシフト先の通貨については特定の通貨に集中するのではなく、多通貨に分散している。今回のデータで見る限りユーロ、円、カナダドル、その他通貨だ。多通貨分散だ。これはドルに代わるあるいはドルと並ぶ通貨がなかなか現れない点を示している。

では通貨ごとにデータを見る。

1. ドルの割合は 57.80% だった。前期よりも若干増えたが、これはドル高で他の通貨のドル額が減少したためで、為替レート要因だ。ちなみに 1 年前は 58.42% だった。
2. ユーロの割合は 19.83% だった。前期に 3 年ぶりに 20% 台に乗せたが今回再び 19% 台に戻った。だがこれは為替レート要因のためで、もし為替レートが前期と同じなら 20% を維持していた。ドルに次ぐ通貨として、ドルに肩を並べる期待がユーロ発足当初にはあったが、実際のシフトはあるもののドルの受け皿にはなっていない。
3. 人民元は 2.18% だった。人民元はこのところ減っていたが、前期に減少が止まった。今回もその傾向が続く。だが依然として 2% 台では国際的な外貨準備通貨には程遠い。製造業と違い、金融では米国との差は圧倒的で埋まらない。

4. 円の割合は 5.82%だった。ドル高(158 円水準)にもかかわらず前期と同じ割合だった。実質的には増加傾向で、1 年前は 5.69%だった。経済動向や金利水準にかかわらず円のポートフォリオは底堅い。これは地政学的リスクのヘッジなどの需要がコンスタントにあるからだろう。
5. カナダドルの割合が増加した。2.77%で過去最高だ。一方、共に増加傾向を辿ってきたオーストラリアドルの割合は 2.06%で前期よりも減少した。
6. その他通貨の割合は 4.46%だった。このところ每期増加が続く。ちなみに 1 年前は 3.87%だった。その他通貨とは、以上記述してきた通貨とスイスフラン以外の通貨だ。IMF は内訳を公表していないが、香港ドル。シンガポールドル、スウェーデンクローナ、韓国ウォン、ノルウェークローネ、ニュージーランドドルなどが推測される。

以上です。